

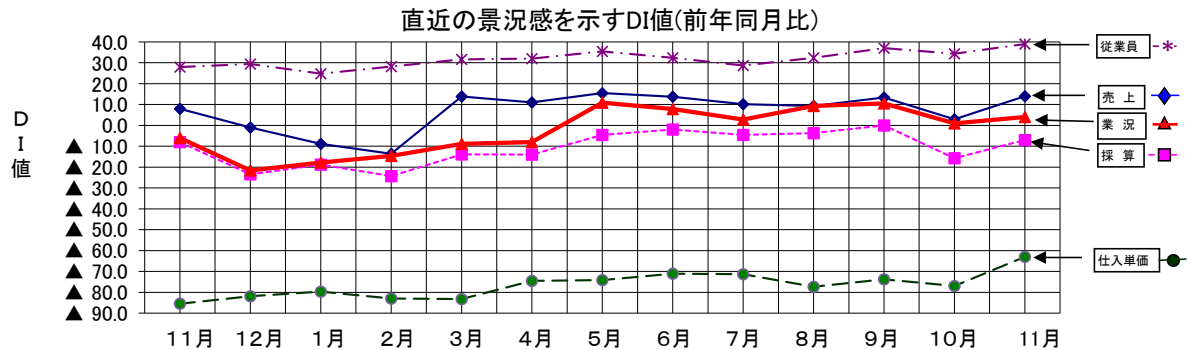
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 11月分

【11月の概要】

「売上」「仕入単価」は大幅な改善を示すも、
人手不足に加え、円安進行や中東情勢など不安要素は多い

直近の景況感を示すDI値は、全ての項目で上昇し、「売上」は11.1ポイント、「仕入単価」は14.0ポイントと、ともに2ケタの改善となった。「仕入単価」は長らく▲70～▲80ポイント台で推移してきたが、今月は2021年9月を最後に26か月ぶりの▲60ポイント台に上昇した。また、先行き見通しを示すDI値では、「仕入単価」は15.0ポイントと大幅に改善し、「売上」も8.2ポイントと改善している。

一方、コメントでは、中東情勢の悪化により今後の原油価格の動向を不安視する声や、円安進行による輸入原料の高騰に悩む声が見られた。価格転嫁を十分に行えない一部の業種や事業所では、コスト上昇分がそのまま企業負担となり、収益が圧迫されている。人手不足については構造的な面もあり、打破するための長期的な努力が求められる。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)
(Diffusion Index の略)

	2022年 11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	2023年 11月
売上	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	13.9	11.0	15.5	13.7	10.2	9.3	13.3	2.9	14.0
採算	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9	▲ 14.0	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 4.6	▲ 3.7	0.0	▲ 15.7	▲ 7.0
業況	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9	▲ 8.0	10.9	7.8	2.8	9.3	10.5	1.0	4.0
仕入単価	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2	▲ 74.5	▲ 74.1	▲ 71.1	▲ 71.3	▲ 77.3	▲ 73.8	▲ 77.0	▲ 63.0
従業員	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7	32.0	35.5	32.4	28.7	32.4	37.1	34.3	39.0

・プラス幅が増加したDI値：売上11.1ポイント、業況3.0ポイント、従業員4.7ポイント（人手不足局面へ）

・マイナス幅が減少したDI値：採算8.7ポイント、仕入単価14.0ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
9月	21.9	7.6	7.6	▲ 50.5	35.2
10月	10.8	▲ 1.0	7.8	▲ 50.0	38.2
11月	19.0	▲ 2.0	2.0	▲ 35.0	35.0

・見通しが改善したDI値：売上8.2ポイント、仕入単価15.0ポイント、従業員▲3.2ポイント（需給均衡局面へ）

・見通しが悪化したDI値：採算▲1.0ポイント、業況▲5.8ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	2024年問題に向け、これまでの3年間の意識改革・業務改善の成果を積み上げながらそれらを活かすべく取組中。
	電気工事	インボイス制度が導入されたため、少し混乱している。
製造業	製菓	円安の進行とともに原材料の値上げが後を絶たず、得意先の理解は一定程度あるものの、価格転嫁は進まない。
	鋼材	インフラのメンテナンス要請に一部応えられない状況。人手不足は今後も続くと思われる。
卸売業	調理器具	雇用調整助成金がなくなり厳しい状況。売上は回復基調にあるも円安進行で仕入原価値上りが予想される。
	青果	秋冬野菜も出回ってきたが、例年に比べ出荷量が少なくサイズも小さい。物価高の影響で業績は厳しい見通し。
小売業	ホームセンター	円安長期化で利益面の影響が大きい。消費の優先度が比較的低い耐久消費財を扱う当業界は苦戦が予想される。
サービス業	タクシー	人流は増加傾向だが、物価は高止まりで推移しているため、業況は良くない。ライドシェアの動きも心配。
	運輸	中東地域の不安定化が続いており、原油価格の高騰が心配である。
	警備	慢性的な人手不足が改善されない。人員確保のために賃金ベースを上げており、厳しい経営環境が続いている。